

関西哲学会第 77 回大会プログラム

日時：2024年 10 月 12日（土）、13 日（日）

場所：京都大学本部構内・文学部校舎

【第1日目】 10月12日（土）

受付開始9:30より

個人研究発表（A: 第一講義室、B: 第二講義室）

- 1 10:00-10:45
- A 知的直観をめぐるフィヒテとシェリングの論争
久富峻介（京都大学）
司会 中川明才（同志社大学）
- B クオリア問題と原抑圧～フロイト＝ラカンを参照しつつ～
吉田茂美
司会 西村正秀（滋賀大学）
- 2 10:50-11:35
- A イェーナ期におけるヘーゲルの境位概念の成立
市川諒太（同志社大学）
司会 竹島あゆみ（岡山大学）
- B ジル・ドゥルーズの「習慣」概念について
得能想平（奈良先端科学技術大学院大学）
司会 吉永和加（名古屋市立大学）
- 3 11:40-12:25
- A ショーペンハウアーにおける超越論哲学
——カントの存在論的解釈との問題連関に照らして——
藤永綾乃（同志社大学）
司会 長田蔵人（明治大学）
- B パトナム「内在的実在論」をめぐるアーペル＝ハーバーマス論争
佐々木尽（大阪大学）
司会 新茂之（同志社大学）

委員会 12:30-13:30（第五講義室）

個人研究発表（A: 第一講義室、B: 第二講義室）

- 4 13:35-14:20
- A 九鬼哲学における「自然」概念の再検討
——「客観的法則」としての「じねん」に着目して——
兵藤慧樹（立命館大学）
司会 安部浩（京都大学）

- B ケア能力と本質主義
——ノディングスの『母親らしさの要因』を中心に
安井絢子（関西大学/日本学術振興会）
司会 品川哲彦（関西大学）

5 14:25-15:10

- A Gibt es etwas?の問いはどのような意味を持つか：
ハイデガーの戦時緊急学期講義を再検討する
酒詰悠太（大阪大学）
司会 松本啓二郎（大阪教育大学）

- B ベルクソンにおける「ギリシアの精確さ」概念の検討：
「公理論的論証」との関係を中心に
磯島浩貴
司会 三宅岳史（香川大学）

共同討議 15:15-17:45（第三講義室）

「カントと超越論哲学」

超越的学知(scientia transcendens)のゆくえと理性批判

カントと超越論哲学の原風景

長田蔵人（明治大学）
三谷尚澄（信州大学）
司会 嘉目道人（大阪大学）

会員交流会 18:00-19:00（第四講義室）

（※以前のような酒食を提供する懇親会に代わり、会員間の議論と交流のために、一日目の発表終了後、会員控室（第四講義室）を開放します。簡単なお茶とお菓子のみ提供します。事前の予約や料金は不要ですので、奮ってご利用下さい）

【第2日目】 10月13日（日）

受付開始9:30より

個人研究発表（A: 第一講義室、B: 第二講義室）

6 10:00-10:45

- A カッシーラーによるヘルダー歴史哲学の解釈と評価
岩本智孝（大阪大学/日本学術振興会）
司会 林克樹（同志社大学）

- B マルブランシュにおける自由と「魂の自然学」
竹中利彦（関西大学）
司会 久米暁（関西学院大学）

7 10:50-11:35

- A 超越論的主観性から共同主観性へ
——廣松哲学における身体の認識論的意義——

- 佐野寛明 (京都大学)
司会 石崎嘉彦 (摂南大学名誉教授)
- B スピノザにおける「人間」の個体説を擁護する
立花達也 (大阪大学)
司会 稲岡大志 (大阪経済大学)

8 11:40-12:25

- A 中期ニーチェの視点から、後期ニーチェを批判する
柳和徳 (大阪市立大学後期博士
課程単位取得)
司会 竹内綱史 (龍谷大学)
- B 対話の我々現象学
橘英希 (大阪大学)
司会 中村拓也 (同志社大学)

編集委員会 12:30-13:30 (第五講義室)

総会 13:35-14:05 (第三講義室)

ワークショップ 14:10-16:10 (第三講義室)

- 「形而上学的時間をめぐるトリロジー——九鬼周造・ベルクソン・ハイデガー」
岡田悠汰 (東北大学/日本学術振興会)
濱田明日郎 (在野研究者)
藤貫裕 (京都大学/人文学連携研究者)
司会 山口尚 (京都大学)